RINYU OSAKA
［りんゆう おおさか］
Official Bulletin of Obayashi Osaka Rin'yu-kai　大林組 大阪林友会 機関誌
2026 Vol. 1
世代をつなぎ 未来にすすむ
RIN-YU



特集

大林組 竹中大阪本店長×大阪林友会 山本最高顧問×松山会長が語る

大阪林友会の過去（むかし）、現在（いま）、未来（これから）

120年の歴史に思うこと

松山　この度、大林組大阪林友会として新たに機関誌『RINYU OSAKA(リンユウオオサカ)』を創刊する運びとなりました。創刊を記念し大林組と大阪林友会の関係性やつながりについてお話を聞かせていただきたく、大林組竹中大阪本店長と大阪林友会山本最高顧問にお集まりいただきました。本日は、よろしくお願いいたします。

設立120年を迎え、大阪林友会では「世代をつなぎ、未来にすすむ」を新たなコンセプトに掲げています。デジタル化が進む現代にあえて紙で情報発信をすることはチャレンジでもありますが、自然と目にとまる紙媒体を活用し、さらなる大阪林友会の認知度向上につなげていきたいと考えています。

山本　1989(平成元)年に津室隆夫氏が4代目社長に就任され、当時会長であった大林芳郎会長(3代目社長)から呼ばれ、「山本君、大阪林友会には青年部は無いのか?無いならばつくりなさい」というお話があり、1990(平成2)年に大林組大阪林友会青年部を立ち上げることになります。役員を選任させていただく中で、私ども青年部を多くの大林組社員の方々に認知していただくために、機関誌を発行することとなり、早速着手いたしました。


竹中秀文大阪本店長

青年部の活動を発信することに加えて、若手経営者の育成や交流といった目的があり、当時は各支店や現場に手渡しでお配りしておりました。

竹中　大林組でも1963(昭和38)年から、社内報『マンスリー大林』を発行しています(現在隔月発行)。アーカイブで創刊時のものから時々読み返しますが、過去の出来事や先輩たちが考えていたことを誌面から知ることができて、とても面白いです。また、過去の取り組みを知ることで、今の仕事に対する新たな発想が得られることもあります。

大林組が大阪・関西万博開催に向けて準備を進めていた時には、1970(昭和45)年の大阪万博の取り組みを知りたくて、当時のマンスリーをめくってみたことがあります。開催の2年程前から準備に動き、万博に対する思いなどが書かれていて、当時の社内で活発に議論をし、高い熱量で取り組んでいた様子が誌面から伝わってきました。


山本正憲最高顧問

松山　過去を懐かしむだけでなく、今では当時を知る貴重な資料として読まれているのですね。私たちも未来の大林組の社員の皆さんや大阪林友会のメンバーにとっても役立つ情報を残していきたいですね。

竹中　当時の社内報の写真からは、社内の雰囲気がそのまま伝わってくるので、資料よりもリアルです。機関誌の発行は後の後輩たちの参考資料にもなると思います。

山本　毎年、『大林組工事画報』を刊行されていました。こちらはこれまで請け負った建築物を収録した冊子でした。

松山　1930(昭和5)年から70年以上におよぶ工事画報は、まさに大林組と林友会の歴史そのものですね。


松山大祐会長

竹中　大阪本店長という立場になってひしひしと感じることがあります。それは、大林組で働く皆さんが、自社の歴史を知らなくてはいけないということです。自社の130年以上続く歴史を意識することが必要だと考えます。

京都支店長時代に関わりのあった、京都の老舗企業や老舗店は、「100年以上続く老舗」としてその歴史に誇りを持っておられます。そうした企業では、若手社員の皆さんも自社の歴史を、お客様に説明することができます。そのような、これまでの歴史への誇りや感謝を、大林組の社員全員が見習わないといけないと感じています。それだけの歴史が大林組にも、林友会にもあると思います。

自社の歴史を知ることで愛社精神も生まれるし、先人に負けないような仕事をしようという意欲も生まれると思うのです。

山本　大林組と同様に、大阪林友会でも若手への技術技能や事業承継だけでなく、歴史をつないでいくことはとても大切なことだと思います。

竹中　大阪の子どもたちにも大阪の歴史ある建造物を知っていただいて、「建設業ってすごいな」と感じてほしいですね。町の建物を知ることで、自分の住む町を誇りに思ってもらえるとうれしいです。

松山　そして、建設業に興味を持つ子どもたちが増えることはうれしいことです。私たちも120年を機に、大林組と大阪林友会の歴史や、絆に着目し新たな企画や構想を考えたいですね。

山本　人がつないできた120年だという意識をもっておきたいですね。

コーポレートソング『風を起こす者』

松山　2025(令和7)年11月13日に開催した「大林組林友会120年祝賀会」では、コーポレートソング『風を起こす者』のサプライズイベントがありました。大林組も林友会も全員で盛り上がりました。

山本　大林組のコーポレートソングは、御社が100年を迎えられた際に『大林組百年史』と共に誕生した歌です。



2025(令和7)年8月26日に東北林友会の下部組織である八戸林友会(八林会)の60周年イベントが行われました。私も鈴木大林組東北支店長から依頼を受け出席させていただきました。その時、白井貴子さんが『風を起こす者』を歌われていました。そこで、私と松居東北林友会会長とで、白井貴子さんと共に出演されていたギタリストの本田清巳さんを口説き落とし、祝賀会にお越しいただく運びとなりました。

竹中　私自身も現場に出ていた頃は、毎朝、朝礼でこの曲を流していました。この曲が流れると、現場の雰囲気が引き締まります。私自身も曲を聴くと、「よし、今日も一日がんばろう」という気持ちになった当時のことを思い出します。音楽から力をもらうことってありますよね。

山本　歌詞もいいし、覚えやすいメロディです。大林組や林友会の若い方たちにもぜひ聞いてほしいですね。

竹中　それはいいですね。とにかくこの曲を聞いて、現場で前向きな気持ちで仕事に取り組むことができました。現場は、猛暑もあれば、場所によっては極寒の地もある。とにかく社員が元気に働いている姿を見ると安心します。

大林組と林友会の関係性

山本　大林組の初の大工事を知る方も少なくなりました。皆さんはご存じでしょうか。1892(明治25)年1月18日に、後に東洋紡の礎を築き、近江商人で豪商でもあった阿部一族の阿部製紙所工場新設工事で、初めて落札に成功しました。それから7日後の1892(明治25)年1月25日を土木建築請負業「大林店」の創業の日と定めました。

竹中　工期が苦しかったけれど、施主が「工期を前倒しにしたら報奨金を出す」とおっしゃったそうです。そうしていただいた報奨金を、創業者の大林芳五郎氏は、「これは竣工のお祝いです」と言って受け取らなかった。かっこいい話です。

山本　後に関連企業の工事も受注して、大林組もどんどん大きくなっていきます。阿部製紙所の発展もご存じのとおりです。

松山　いい話です。そうして大林組としての信頼を築いてきたんですね。

竹中　先月、奈良県の生駒隧道(旧生駒トンネル)を見学させていただく機会がありました。初代社長の芳五郎氏が大阪電気軌道(現・近畿日本鉄道)の創立委員として携わっていた関係から、工事を請け負った隧道です。実際の隧道のスケールの大きさに、こんな工事を大正時代にしていたのかと感心しました。すごい仕事です。あれをやり遂げた先人たちの力に頭が下がる思いでした。時代を経ても、世間に驚きを与えるような工事を、一つひとつやり遂げ、築いてきた信頼と実績が大林組にはあります。



松山　掘削工事は、1911(明治44)年に着手し1914(大正3)年に完成、わずか3年です。生駒山地を東西に貫いたことで、人も荷物も行き交うようになりました。その歴史的価値が認められて、2009(平成21)年に近代化産業遺産に認定されています。

竹中　植木博子の『篤き人』という、大林組の先人の仕事を書き残した小説があるのですが、今お話ししたようないい話がたくさん載っています。林友会の結成以来、大林組と林友会は常に、同じゴールを目指して仕事をしてきました。社会のために、より良いものをつくるという思いで苦労しながら新しいものにチャレンジしていく姿勢は、今も受け継いでいるはずです。

松山　大阪林友会の会長として、大林組と林友会が共に高め合い、より良いものを創っていく、そんなマインドを持ち続けられる風土づくりをしていきたいと思います。

林友会との思い出

竹中　20年以上前になりますが、とある現場で落石事故が起こった際、全国から林友会の職人たちが飛んできてくださいました。東と西の林友会の方たちでしたが、互いに「あいつらには負けない」という職人たちのプライドがありました。ですが、互いの職人としてのプライドがぶつかり合うことで、より高い技術と品質が生まれ、予定より短い工期で仕上げることができました。普段は個の技術を磨き、何かあれば、職人のプライドや意地を持って協力できる、そんな職人の世界をとてもかっこいいなと思います。

山本　「大阪の大林だ」と、昔の人は誇りを持って名乗りましたね。皆が自分の仕事に誇りをもって働きました。

竹中　私が若い頃は、現場の先輩や職人の皆さんは仕事には厳しかったけれど、普段は気さくに話していただき、交流がありました。家に泊めてもらったこともあります。学校を出て大林組に入ってから学んだことは本当に多いです。

山本　昔と比べると、いろんなことが変わりました。若い人の考え方も自分とは違いますし、デジタル化、少子高齢化、担い手の人材不足などの課題もあります。

松山　先人・先達の築いてきた歴史も大切にしつつ、時代の様々な変化を受け入れながら、大林組と大阪林友会が共に進化しなければと日々感じています。

竹中　共に進化というのは本当にそうです。建物が竣工し、実際に建築物を目にした時には、大変だっただろうなと工事に携わった方々をねぎらう気持ちと同時に、この現場に自分も関わりたかったというジェラシーも湧きます。

それは建設業の良さで、しんどい、もう辞めたいと思いながらも、前よりもっとすごいものを作りたいという気持ちが芽生える。一人ではなく現場にいる大勢の仲間で乗り越えたから、また一緒に仕事がしたいと思えるのだと思います。そのような絆があるからこそ、大林組が大手企業として進化し続けることができるのです。

松山　大林組の企業力があるからこそ、私たち、大阪林友会はプロの技術を生かすことができます。同時に、大阪林友会の技術力が、大林組の技術力や業界の進化につながっている。そんな関係をこれからも築いていければと強く願います。

竹中本店長からメッセージ

竹中　大林組の若手社員も、大阪林友会の若手技術者も、大林組にとって大切な金の卵です。上司がどんなふうに教育指導するか、若手はそれをどう捉えて仕事に向かうか。それによって、育っていく方向も高さも変わります。上司は共に仕事をする同志として、大切にのびのびと育てる意識をもってほしいし、若手はその中で思いっきり仕事をし、おおいに吸収してほしいですね。時代が変わっても、人と人が切磋琢磨し合い成長することは変わりません。

年長者と若手がタッグを組んで、大林組と大阪林友会、共により良い未来に向け進んでいきましょう。



大林組大阪林友会

10の活動グループ

大林組大阪林友会では、
存在価値を高めるため10の活動グループを設置し、
選抜メンバーを中心に積極的に活動しています。



1 非常災害対策活動

活動内容

発災・緊急時等のスムーズかつ現実的な協力会社の安否確認・支援体制の構築・維持

具体的な取り組み

- 地震、台風などによる災害発生時の災害復旧支援活動
- 協力会社の安否及び復旧支援体制確認システムの対応（セコムSCM）（震度6弱以上の地震）
- 非常災害対策活動組織の構築と定期的な登録内容の見直し
- 定期的な自主安否確認訓練（セコムSCM）の実施
- 大林組全店訓練への参加

2 経営支援活動

活動内容

会員会社の安定的な事業運営を支援できるタイムリーな題材（中小企業、業界独自の諸問題）を見つけ、研修会を年1～2回開催

具体的な取り組み

- 会員企業が抱える経営上のさまざまな課題を解決するために、その一助となるような講習会や研修会を適宜開催する



3 担い手確保及び若年層育成活動

活動内容

大阪林友会会員会社への新規労働力確保、ルート開拓、就職先・選択肢としての認知度拡大及び若年技能者の定着を目的に研修会と交流会を行う



具体的な取り組み

- 高校生求人活動、退職自衛官求人活動、若年技能者の定着、SNSを使った建設業のイメージUPを実施していく
- 高校生の学校訪問・現場見学会・退職自衛官の企業説明及び現場見学会・スタートアップラボ・若年技能者研修会・ルーキーズスキルアップ研修会

4 営業支援活動

活動内容

営業協力依頼等の効率的な協力・支援

具体的な取り組み

- 大林組からの要請に基づき適宜会員への大林組の営業活動に資する協力を行う
- 協力の実績を集計する

5 労務体制管理活動

活動内容

関西圏での林友会としての施工能力を充実させる



具体的な取り組み

- スーパー職長の研修会の企画、開催
- 施工、安全等参考となるモデル現場の見学
- 労務量の山積状況、および今後の工事量の共有

6 省力化・業務改善活動

活動内容

「働き方改革」をメインテーマに省力化・業務改善策の立案・実施、および機械化等に取り組む

目　的

- 安全衛生管理・品質確保・原価低減等に向けた業務改善を協力会社が主体的に提案し、自主管理能力が強化されることを目的とする
- 林友会所属の協力会社と大林組の生産支援部門等がテーマを選定してワーキングを行い、業務改善内容を水平展開することで全体の底上げを目指す

具体的な取り組み

- 林友会会員及び外注協力会社と、大林組（調達部・工事部・調達企画部・見積部・生産設計部・生産企画部）との省力化・業務改善活動の定期開催
（月1回 大林組18名、林友会25名参加）



7 設備QA会活動

活動内容

設備工事の技術力・品質向上、生産性向上を目的に複数グループで定期的に活動し、年に1回11月に成果発表会で情報共有を行う

具体的な取り組み

電気	A	建設業におけるAI活用
	B	受変電設備関連について
空調	A	現場進捗と合わせたQRコードの活用と各種管理業務との連携事例
	B	隠ぺい配管について
	C	現場管理ツールの比較



8 土木部会活動 ※土木部会の年度は4月始まり

活動内容

1. 会則に基づき、部会メンバーから役員を選任し、役員会を組織する
2. 大林組大阪本店土木事業部と連携しながら、役員会において部会の活動方針を決定する
3. 部会活動の実務者組織として安全施工委員会、企画委員会、安全衛生パトロール班をそれぞれ組織する
4. 全体会議である土木部会を定期的に開催し、情報共有と活動結果のフォローアップを実施する

具体的な取り組み

1. 土木工事の林友会メンバーで役員会・勉強会などの会合開催
2. 大林組土木事業部との交流会実施（新年会・暑気払い・慰労会・事業方針など）
3. 大林組土木事業部の活動推進・補助
4. 大林組土木事業部の合同安全パトロール開催



9 安全衛生パトロール活動

活動内容

安全衛生パトロールを実施して労働災害防止を図る

具体的な取り組み

- 大林組林友会所属会社による安全衛生パトロール（月1回開催）



10 広報活動

活動内容

林友会の活動や各グループの取り組みを広く発信し、林友会の認知度向上と会員相互の情報共有・連携強化を図るため、機関誌を定期的に発行する

具体的な取り組み

機関誌は、大林組の各部署・各現場をはじめ、林友会会員へ広く配布し、日頃の活動や現場での取り組み、会員企業の情報などを発信することで、大林組と林友会、そして会員同士をつなぐ広報媒体として活用する。また、林友会の役割や活動、会員企業の魅力を次世代へ伝えるため、リクルート活動にも活用できる林友会紹介パンフレット等を制作する。若い世代や建設業を目指す人たちにも林友会を知ってもらう機会を増やし、将来の担い手確保にもつながる広報活動を展開していく



FILE 1

GSユアサ守山

DATA

工事名：（仮称）GSユアサ横江工場建設工事
発注者：株式会社GSユアサ
工　期：2024年4月着工～2027年2月末竣工（1期工事）
規　模：敷地面積約6.3万㎡、延床面積約10万㎡（鉄骨造）



（仮称）GSユアサ横江工場建設工事は、着工約１年前から生産系プロジェクトマネージャー兼統括所長として磯崎利幸氏が、フロントローディングに着手し、全体工事計画や設計検討を進め「統括所長方針」の策定と社内外への共有が行われました。

第一優先事項：安全管理
第二優先事項：品質管理
第三優先事項：工程管理、次世代技術の活用、働き方改革

この優先順位を「プロジェクトの絶対的な判断基準」とし、工事計画や設計、調達などあらゆる業務に反映されました。工事事務所職員、職長、大阪林友会の協力会社が、主体的に「改善提案」や「新たな挑戦」を行う風土が定着し、「安全」「品質」の確保と「生産性向上」「働き方改革」の両立を実現しました。工事事務所と協力会社が同じベクトル（方向）を向き一体となり取り組み、より良い成果へとつながりました。

● 現場の様々な取り組み

1）移動式足場「うごーく」

導入目的…足場数量の削減及びローリング足場の移動手間削減。
組立時の災害リスク軽減

主な特徴…
- 付属のリモコンで約3.5tまでの足場を移動可能（高性能キャスターと併用で最大5tまで移動可）
- 前後左右、斜め方向など8方向に移動+回転可能
- 1回の充電で、1日分の作業ができる容量のリチウムバッテリー搭載（条件による）





▲うごーく全景写真

2）顔認証鍵管理システム

導入目的…
① 鍵の貸出・返却を顔認証で管理することによりセキュリティーの向上を図る
② 鍵管理に伴う業務を省力化・効率化
③ 貸出履歴確認による稼働状況の管理やコスト削減に寄与



3）火気使用届の電子化



①火気作業員が火気作業申請・点検の報告を行う
②日ごとに火気使用届ファイルを作成し、保存。常時、閲覧・編集が可能
③担当者が確認・押印

4）翻訳サイネージの導入

使用ソフト：三菱電機株式会社【MelBridge翻訳®サイネージ】

導入背景… 建設現場には多くの外国人労働者が従事。コミュニケーション不足が原因の災害が発生している。そのため、言語による認識の差異を軽減することが求められていた

改善案…… 朝礼時、話者の発言をリアルタイムで翻訳し、専用モニターに表示する。専用モニターには、当現場に従事する外国人労働者数上位4カ国の言語を表示した

改善効果

★ 外国人労働者の朝礼の理解度が向上した。

主に3つの場面で使い分け

①多言語リアル翻訳

使用例：朝礼時の統括所長談話、ヒヤリハット報告の発表



②事前に原稿を作成して表示

使用例：朝礼のキープラン発表、現場見学のルート説明



③事前に原稿を作成し、画像資料と併せて表示

使用例：新規入場者教育





5）ひとつかみヤードの整備

導入目的… 分別回収可能な「ひとつかみ運動」の実現と活性化

主な特徴… 各フロアに5カ所ずつ、ひとつかみヤードとして、ペール缶を3台配置（スクラップ・混合廃棄物・廃プラスチック）。また、各ヤードに、協力会社＋大林組職員１名ずつを担当に任命し、責任をもって管理させるようにした

改善効果

★階段やエレベーター等、作業員の主要動線上に設置したことで、「やる気」を促すことに繋がり、ひとつかみ運動が活性化した。
★床に放置されているゴミがほとんど見られなくなった。
★捨てる先を3種類に分けることで、コンテナに入れ替える際に、分別する手間が削減できた。
★ペール缶を小さいサイズにしたことで、電池等、混合廃棄物として処理できない資材の発見が可能となった。



▲ひとつかみヤード



◀実際の現場状況

6）安全衛生協議会における、事業者表彰



7）コンフォート班（職長会活動）について

導入目的… 女性目線ならではの気付きで職場環境の改善をうながす



▲定例ミーティング



▲職長会参加看板

大阪林友会へメッセージ／統括所長 磯崎

いつも大林組を支えていただき、誠にありがとうございます。
建設業界では担い手不足など多くの課題がありますが、大阪エリアのさらなる発展には大阪林友会の皆様の力が不可欠です。私が特にお願いしたいのは、「安全」と「品質」において業界最高水準を共に目指していただくことです。安全と品質は、お客様からの信頼を支える最も重要な基盤であり、大林組の価値そのものだと考えています。今後も「最新技術の活用」や「人材育成」「優良事例の共有」を通じて切磋琢磨し、大阪エリアの建設業界のさらなる発展を共に目指していきたいと考えています。
引き続き、ご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

スーパー職長制度

林友会が育む、現場を支えるリーダーたち

安全、品質、そして技術の継承。その全てを最前線で支えているのが「職長」です。
林友会では、大林組と連携し、優れた技能と人間力を兼ね備えた職長を「スーパー職長」として認定・育成する制度を推進しています。
制度の目的や役割、そしてスーパー職長に込められた想いをご紹介します。



◆スーパー職長制度とは？

この制度は、建設技能者の育成と処遇向上を目的として運営してきた制度であり、林友会が長年取り組んできた人づくりの象徴ともいえます。

制度創設以来、林友会は優秀な職長の推薦や育成、会員企業への制度周知を積極的に行い、「優れた職長を業界全体の財産として育てる」という理念のもと、その普及・発展を支えてきました。

	ジュニア	レギュラー	マイスター
年齢（認定時点）	39歳以下	64歳以下	スーパー職長「レギュラー」の認定者
職長経験 ※大林組の現場にて	通算3年以上	通算7年以上	レギュラー認定+16年以上
CCUS技能者レベル	レベル3以上	レベル4	認定申請は事業主が判断する

◆現場での職長の役割

- 安全・品質・工程・原価を管理
- 若手技能者への技術指導や人材育成
- 協力会社間の連携を担う重要な存在

卓越した技能と豊かな経験、優れた人間力を兼ね備えた職長を「スーパー職長」として認定

技能者一人ひとりが誇りと目標を持って働ける環境づくりを推進

若手技能者にとっては、「いつか自分もスーパー職長になりたい」という明確な目標となり、技術の研鑽や資格取得への意欲向上につながっています。また、認定者への手当支給や社会的評価は、技能者の処遇改善にも寄与し、 建設業界全体の魅力向上にも大きな役割を果たしています。

近年では、建設キャリアアップシステム（CCUS）の活用など時代の変化にも対応しながら制度を進化させ、林友会が培ってきた「人を育てる文化」はさらに広がりを見せております。スーパー職長制度は単なる認定制度ではなく、技能を正当に評価し、人材を育て、次世代へ技術を継承するための仕組みであり、林友会が大林組とともに築き上げてきた重要な財産です。今後も会員企業と技能者が誇りを持って働ける環境づくりを通じ、建設業界の持続的な発展と技術継承に大きく貢献してまいります。



大林組林友会
設立120年記念式典が開催されました

2025年11月13日、林友会の結成120年を祝う記念式典が、大阪市中央区のシティプラザ大阪にて開催されました。当日は、大林組より大林剛郎会長、佐藤俊美社長兼CEOをはじめ、役員、各本支店長の皆様にご臨席賜り、大林グループ社員、全国各地の林友会役員など、総勢207名が参加しました。



式典では、大林組を代表して大林会長、佐藤社長より祝辞をいただきました。



大林会長は、「林友会は当社の歩みを支え続けてきた存在であり、その長い歴史は信頼と絆の証しでもあります。これからも支え合い、共に成長し、次の時代を築いていきたい」と語られました。

また、佐藤社長からは「林友会は大林グループの礎を形づくってきた存在であり、今後もより深く柔軟な連携体制を構築していく。そして、技術承継や担い手確保などの課題を共に乗り越えながら、国内建設市場でリーディングカンパニーとしての地位を堅持し、共に成長していきたい」とのお言葉をいただきました。



大林組林友会連合会の山本会長は、1906(明治39)年に初代社長 大林芳五郎氏によって大阪で結成されて以来、大林組と両輪となって歩み続けてきた林友会が、幾多の困難を乗り越え、120年の節目を迎えた歴史を振り返りました。





また、「これからも会員企業が互いに自己研さんに励み、切磋琢磨しながら、サステナブルなサプライチェーンの確立、プライドを持ったものづくり、指差呼称と安全確認を柱に活動していく」と語り、ものづくりの担い手として培ってきた技術や経験を、確実に次世代へつないでいく決意を新たにしました。

鏡開きと乾杯の後には、全国各地区の林友会会長と大林組各本支店長によるエール交換が行われました。

その後、サプライズゲストとして歌手の白井貴子さんが登場。創業100年を記念して制作された大林組のコーポレートソング『風を起こす者』を熱唱し、会場は大きな盛り上がりを見せました。

120年という大きな節目を祝うとともに、長年にわたり築き上げてきた大林組と林友会との協力関係を改めて確認する機会となりました。

そして、次世代への技術と信頼の継承、さらなる結束の強化に向け、共に歩み続けていくという決意を新たにする、記念すべき式典となりました。

編集後記

このたび、大林組大阪林友会の活動を広く発信し、ご理解と信頼をさらに深めていただくことを目的として、機関誌を創刊する運びとなりました。

私にとっては、1998年に当時の大阪林青会で発行していた『Jトピックス』以来、28年ぶりに編集長を務めることとなりました。

記念すべき創刊号では、大林組 竹中大阪本店長、大阪林友会 山本最高顧問、松山会長による対談を特集いたしました。

竹中本店長におかれましては、ご多忙の中、貴重なお時間をいただき、大阪林友会への思いや今後への期待などを語っていただきましたこと、心より御礼申し上げます。

本機関誌は、大林組様への大阪林友会活動の周知をはじめ、各部会の活動を共有することで会員相互の情報発信を促進し、大林組様と大阪林友会との連携をより一層深めることを目的としております。

今後、年2回(春号・秋号)の発行を目標に、皆様に親しんでいただける機関誌を目指してまいります。

創刊にあたり、本誌の趣旨をご理解いただき、今後とも大阪林友会の活動と運営に、皆様のご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

大林組大阪林友会 広報活動グループ　**田浦 真一**

大林組大阪林友会機関誌
RINYU OSAKA Vol.1

発行日　2026年10月21日
発　行　大林組大阪林友会 事務局
大阪市中央区北浜2-5-23 小寺プラザ2F

編　集　大林組大阪林友会 広報活動グループ
田浦 真一（田浦）
竹林 正浩（竹林塗装工業）
山本 大輔（山本組）
植田 力康（植田建設）

制　作　タイトルロゴデザイン 坂本雄吾
株式会社コミニケ出版

https://rin-yu.jp